

共生未来へ

住まいのヒント

うに見受けられます。坂(スロープ)で上りまないたためにも段差があった方がよいはず。わが家の玄関をどうするかかなり迷いました。足・腰が弱っても出入りしやすい玄関を一番大事に考えました。限られた敷地での段差解消には、電力で車いすごと持ち上げる段差解消機がありますが、購入費、維持費がかかること、だれもが操作できるとはかぎらないことからやめました。

最近のスーパーはバリアフリーになりました。ヨチヨチ歩きのおんからお年寄りまで、さらに商品を手車で運び込む業者にとっても便利です。最近の新築住宅はバリアフリーが一般化したかのよう

です。バリアフリーのモデル住宅を見学したときのことは道路から玄関、生活する床面まで段差はありません。ゆるやかな



ひざの屈伸が不都合な人のため玄関に丈夫なすべり材を用意。げた箱、奥の飾り棚を手すり代わりにして内へ移動できる

パリアの度合い

玄関段差は工夫必要

考えた玄関は道路から緩やかなスロープ(十二分の一こう配)で七十三センチ上がり、引戸の玄関で両開き、段差は五センチ、上がりがまちの段差も五センチにして、左手に縦の長い手すりを取り付けました。五センチの段差は「この程度なら」と車いすで生活している友人は一人で越えてみてくれました。

ついで段差を確認できないうと、靴を脱着する場所が決められないからです。またひざの屈伸が不都合な人には、靴ひもを解く・結ぶ動作は、適当な高さの上がりがまちなあった方が便利でしょう。さらに履物が持ち込む砂やホコリ、水は玄関に留めておき、床に上げ

短大教授 上越市 (杉田 収・梶立看護)